

論理的・体系的に創られた漢字

漢字の最も古いものは、具体物を表す為の“象形”と、抽象事を表す為の“指事”といふ造字法に依る 2 百そこそこの文字です。これらは皆単体の文字で、当時は“文字”と呼ばれず、“文”と呼ばれておりました。

今使はれてゐる漢字は“象形”“指示”を除きますと“会意”“形声”に属する複合文字です。これが“字”であり、先の“文”と合せて“文字”といふ言葉になりました。この構成法が実に論理的であり、見事な体系を形成してゐて、その為初めて見る文字でも、その意味から発音まで推理できるものが少からずあるわけです。次にその例をいくつか挙げてみませう。

且・租・粗・祖・組・阻

青・清・晴・請・精・静

喬・橋・驕・嬌・矯・僑

圣・経・径・輕・莖・脛

用・踊・俑・涌・通・痛

召・招・沼・詔・昭・紹

方・彷徨・芳・坊・防・紡

包・抱・泡・胞・砲・飽

辰・晨・震・振・販・娠

尚・掌・賞・常・裳・償

肖・消・硝・梢・宵・道

奇・崎・埼・綺・寄・椅

化・花・貨・囫・靴・訛

白・伯・帛・粕・拍・舶

半・伴・畔・祥・拌・判

交・校・効・絞・郊・狡

令・鈴・玲・伶・冷・零

“且”は地上に同じ形の物が積み重なった象形ですが、「積み重ねる」「上に加へる」といふ意味を表した文字ですから“指事”です。“租”は「積み重ねた稲」といふことで、租税用の稲を表した字です“粗”は「積み重ねてある米」で、直に食べる“精米”に対して“玄米”を表した字です。“祖”は、祖父、曾祖父、高祖父等「先祖代々の神」を表した字です。ネは神を表す部首です。“組”は「糸を何本も重ねて編んだ糸(組紐)」を表した字です。また「紐を組む」意味を表します。“阻”は「積み重なった崖」を表した字です。阝は崖の象形です。